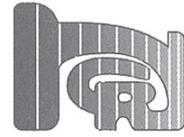


フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行：中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.johas.go.jp/>



「治す(治る)」から「治める(治まる)」へ

中部労災病院 院長 加藤 文彦

本邦では急性期病院の入院患者さんの平均年齢が80歳を超えました。今後、少子高齢化は更に進むことが予想されます。いわゆる「団塊の世代」の方々が後期高齢者(75歳以上)となる2025年以後の超高齢化社会に対応するために、「地域医療構想」を都道府県ごとに策定することが義務化されました。このため、愛知県においても2016年に「地域医療構想」が策定され、その中で当院は「名古屋・尾張中部構想区域」に属しています。

この「名古屋・尾張中部構想区域」は既存病床数：約22,000床、病院数：137、有床診療所：130を有するマンモス構想区域です。そして2025年までに高度急性期・急性期病床を約15,000から約10,000床に削減し、回復期病床を約2,000床から約7,500床に増床することが求められています。さらに急性期病院には、①地域連携の強化、②総合診療力の強化、③回復期医療の導入、という3つの機能強化が求められています。

当院でも、これらの点を踏まえ、かつ地域から当院に求められている急性期医療をより効率よく行っていくために、2016年度以降、色々と検討を重ねた結果、回復期機能を有す

る病棟を設置することに致しました。設置にあたっては、当院の強みであり、地域から求められている医療でもある、脊髄損傷・脊髄障害のリハビリテーションと整形外科慢性疾患手術(脊椎脊髄、下肢人工関節)の実績を踏まえ、急性期治療を終えて在宅に移行する患者さんや他の医療機関への転院待ちの患者さんを集約することを主目的とした「回復期リハビリテーション病棟」を導入することとしております。

これらのことから考えますに、以前であれば『治療』の「治」は、元の状態に「なお治す』という認識でした。しかし、複数の疾患等を有しており元の状態に治すことが難しい高齢者の患者さんが今後増えていくことになれば、『治療』の「治」は、(元々よりは低いけれども)安定した状態に「おさ治める』という認識も持つ必要があります。すなわち、今後の急性期病院は、急性期疾患のみを扱うのではなく、慢性疾患の急性増悪に対応していくことも重要になると考えております。

当院は、今後ますます診療機能を充実させて、地域の皆様に求められている急性期病院としての役割をしっかりと果たしてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今月号のお知らせ

- ①「治す(治る)」から「治める(治まる)」へ
.....院長 加藤 文彦
- ②禁煙外来のお誘い
.....呼吸器内科部長 松尾 正樹
- ③「治療と就労の両立支援」のご紹介
.....治療就労両立支援センター
- ④栄養管理コラム 「いつ」、「どのように」食べる？

- ～時間栄養学～
-栄養管理部 管理栄養士 森山 大介
 - ⑤第14回市民健康セミナーの開催報告
.....神経内科部長 亀山 隆
 - ⑥院内行事開催記録
編集後記
病院の理念・当院の基本方針